

令和3年度

獨協医科大学教育セミナー

# コロナ禍における教育の質転換を目指して

獨協医科大学附属看護専門学校

教務委員会委員長 萩原句子（教務主任）

副委員長 佐山美加（副教務主任）

# 目的

2020年から始まったコロナ禍において  
「オンライン授業」に取り組むことで  
教育の質を担保するための  
課題が明らかになったので報告する。

# コロナ禍で実施した授業形態

※授業:講義・演習・実習

対面授業

オンライン授業

ハイブリッド型

ハイフレックス型

対面

リアルタイム型  
(Zoom)

オンデマンド型  
(LMS・VOM)

# コロナ禍におけるICT教育 2019.9～2020

時期	感染対策のレベル	内容	ICT教育
2019.9		ICT教育の環境整備	準備
2020.1	 1月COVID-19感染拡大		
2020.4	3	授業にLMS機能を活用する オンライン授業の手引き作成・周知 看護系VOM(動画配信サービス)配信 図書館や出版社からのデジタル情報を配信	導入
2020.5	2	LMSの授業動画・看護系VOM・デジタル情報を活用した <b>オンデマンド型 授業</b>	オンデマンド型
2020.10		Zoomを用いた講義・実習開始 <b>ハイブリッド型の講義</b>	↓ ハイブリッド型

# コロナ禍におけるICT教育 2121～現在

時期	感染対策のレベル	内容	ICT教育
2021.1	3	LMSでのオンライン期末試験	ハイブリッド型
2021.4	2.5	対面授業再開 ハイブリッド型の講義・演習 (ハイフレックス型を含む)	
		臨床での実習再開 ハイブリッド型の実習 (対面授業・臨床実習あり)	
2021.10	2	ハイブリッド型の講義・演習 (対面授業あり)	
2022.1	2.5	ハイブリッド型の講義・実習 (対面授業・臨床実習なし)	

# コロナ禍におけるICT教育実践

	講義	演習	実習
オンラインでも 教えられる 教育内容	授業動画視聴 DVDの視聴 グループワーク ディスカッション	DVDの視聴 教科書・技術書の動画の 視聴 シミュレーション	オリエンテーション DVD視聴 日々の課題の提出 提出課題の指導 カンファレンス 学びの発表・Q&A
	<p><b>主体的</b> (興味関心を持つ、自己の学習活動を振り返って次につなげる)</p> <p><b>対話的</b> (対話を通じ自己の考えを広げ深める)</p> <p><b>深い学び</b> (見方・考え方がわかる、知識を相互に関連付けて深く理解する、問題を見出して解決策を考える)</p> <p><b>主体的・対話的な深い学び(アクティブラーニング)が可能である。</b></p>		
対面でしか 教えられない 教育内容	なし	基本技術の実践 教員からの発問、助言	模擬患者への援助の実践 教員からの発問、助言
		<p><b>知識・技術・態度を組み合わせた 複雑なプロセスを学ぶのは難しい。</b></p>	

# コロナ禍における教育の質転換

ICTの  
環境整備  
＋  
ハイブリッド型  
授業の有用性

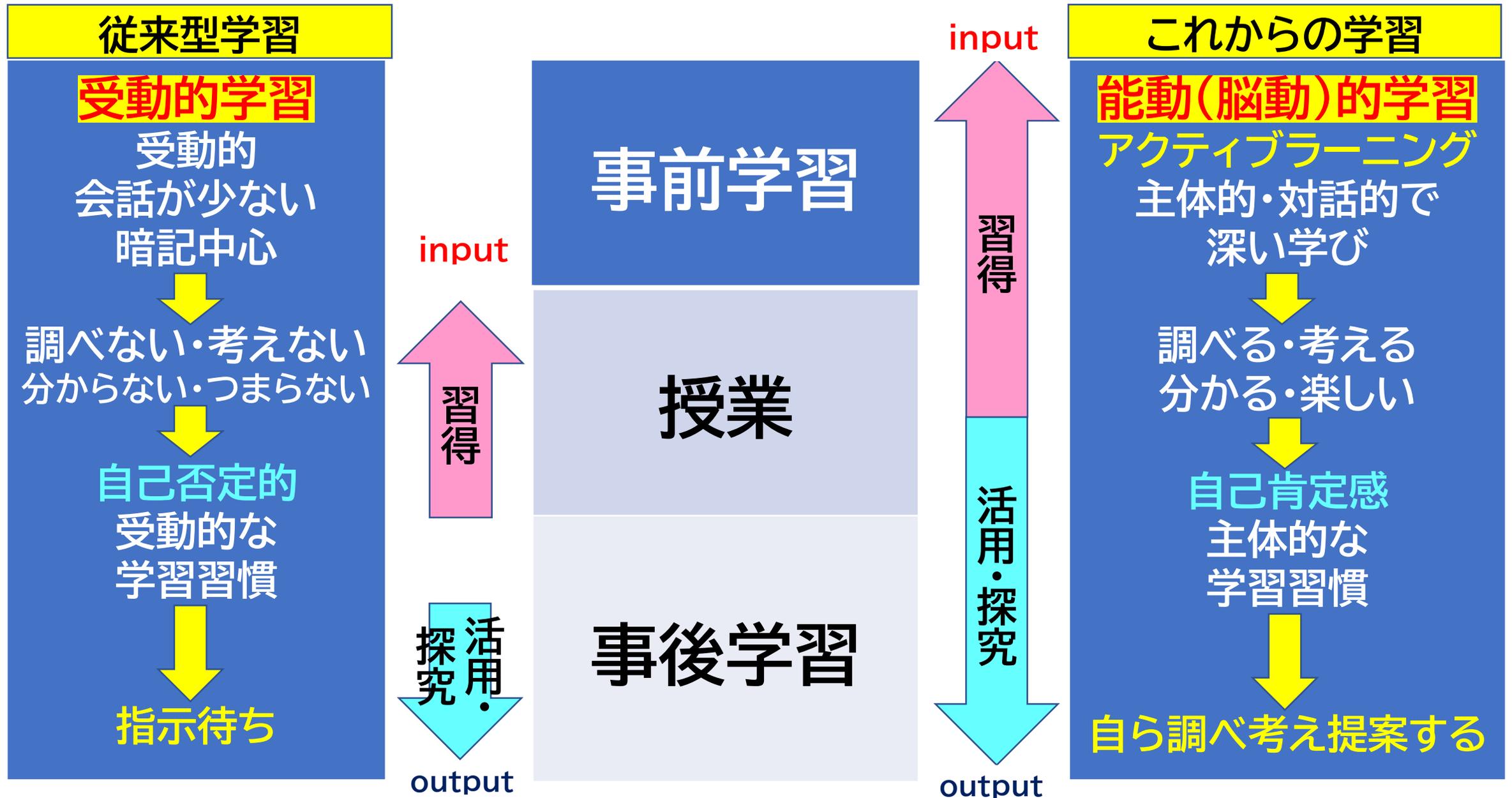
2022.4月から  
アクティブラーニング  
反転授業の全面導入

学長  
方針

坂田  
教授  
講義

主体的に  
学ぶ力の  
習得へ

# 2022年度4月からの授業のイメージ



# オンライン授業の課題

1. 学生との対話を重視し、理解を確認できるよう、LMSの機能・Zoomの機能を使いこなすスキルが必要である。  
→ICTスキルの向上に向けて、教員間のピアレビューを企画する。
2. 2022年4月からの反転授業における事前学習として、オンデマンド型の授業動画作成は検討していない。  
→学生の意見を加味し、内容を検討する。
3. 知識・技術・態度を組み合わせた複雑なプロセスをオンライン演習・実習で教えることが困難である。  
→ICT技術を駆使して検討する。

# まとめ

1. オンライン授業でも、アクティブラーニングは可能である。
2. 対面授業でしか教えられないことは、演習や実習における知識・技術・態度を組み合わせた看護援助の複雑なプロセスである。
3. オンライン授業と対面授業の教育効果を考えて組み合わせたハイブリット型授業は、ウイズコロナ・ポストコロナにおける効果的な授業形態である。
4. ハイブリット型授業に、アクティブラーニングを取り入れ、反転授業を全面的に導入することで、主体的学修姿勢が養われる。

ご清聴ありがとうございました。

情報基盤センターをはじめ、医学部、看護学部、非常勤講師の方々の  
ご理解とご協力に心から感謝申し上げます。